

## 第2回全国高校生SRサミット ～FOCUS～

7月30日（火）から8月1日（木）まで、立命館宇治中学校・高等学校（京都府宇治市、第101回全国高校野球選手権大会出場）と立命館大学びわこ・くさつキャンパス（滋賀県草津市）で全国高校生SR（*Social Responsibility*）サミットが開催され、東高から2年6組の山中千紘さんと田邊蒼来さんが参加しました。

サミットでは、各高校が研究課題を持ち寄り、他校の生徒とグループをつくり解決策を検討し再提案（プレゼン）するという活動を行いました。発表準備の際は、立命館アジア太平洋大学（APU）在学の学生（留学生含む）と有識者（社会人）が生徒達に研究要領を指導し、適宜アドバイスを送り、班活動をサポートしてくれました。東高の2人は夜遅くまで準備に取り組み、最終日に堂々とプレゼン発表しました。下記は、研修後の2人の感想です。



（田邊）今回、このサミットに参加できたことで、数え切れないほどの事を学べ、今までの自分から大きく一步成長できたと思う。また、これからより一層頑張ろうと思う原動力となった。

初日のプレゼンでは、聞いていた話とは違い、学校紹介などでは全くなく、焦ることから始まった。なんとか最初のプレゼンを終え、チーム分けが行われた。今回私は福岡雙葉高校のプロジェクト「*Inclusive education*」をバックアップすることになった。各学校、それぞれの研究の知識もあり、話し合いが終わることがなかった。

今回、2班に1人APUの学生が付きサポートしてもらった。私の班についての学生はシンガポール出身で、言語は英語はもちろん、日本語、中国語、マレー語などトリリンガルの域を超えていた。立命館宇治高校のあるコースの生徒は1年間ほどの留学が義務づけられており、ほとんどの人が日本語、英語に加え、クラスメイトの留学先の言語も理解できるらしい。

今回学んだことはこれでは語り切れないほどだが、それらは私に刺激、意欲を与え、前進するための大きな糧となった。SRサミットの3日間、ほとんどがプロジェクトについての話し合いや活動で大変ではあったものの、それをも忘れるほど楽しかったのもまた事実。心の底から充実していると感じた時間だった。



（山中）今回SRサミットに参加して、特に印象に残ったことが2つあります。

1つ目は、参加者（同じ高校生）の視野の広さや見識の深さです。私の班では、長崎東高校から出した「訪日外国人の熱中症予防」というテーマで話し合いを行いました。そこで、普段、学校ではなかなか聞けないような斬新なアイデアが次々に出て、かつ論拠もしっかりしていることに驚きました。

2つ目は協議の進め方についてです。このサミットではブレインストーミングを使い、樹形図のようにして原因を考えるような話し合いを行いました。これにより、テーマに関する問題点について、わかりやすく且つ全員が理解しやすい話し合いができました。このやり方をSGHの話し合いでも是非実践していきたいと感じました。

初日は他校のプロジェクトや生徒たちのやる気と熱意に圧倒され、私は少し気後れするところがありましたが、少しずつ慣れて他から活力をもらって研究課題の解決に取り組むことができました。最後まで皆は積極的かつ協力的で、取り組む姿勢などは本当に見習うことが多かったです。このサミットで学んだことを一度きりのものにするのがないように、これからのSGHの研究発表につなげていきます。



